

福岡県周辺の基地の動き 第6号

芦屋基地の滑走路延長の動き！

8月はじめに芦屋町議会、8月30日には芦屋町基地対策協議会に防衛省側から現在の滑走路を海側へ193m延長し、1833mにする「芦屋基地滑走路に係わる調査結果について」説明がされた。

今回の説明ではT-4練習機による飛行訓練実施上の必要条件は見たしているが、国内外の飛行場と比較し滑走路が短い。滑走路運用上の問題点として①搭載燃料の制限、②滑走路が濡れている際の着陸制限、③高温時の制限を設けているなど訓練効率がやや低下し訓練生に心理的負担を与え、延長すれば離陸滑走中のトラブルに際し、時間的余裕が生まれ「バリアへの衝突が防げる絵」を掲載しているが、防衛省側は質問に答え、今までに一回もバリアに突っ込んだ事故はないと説明。また、U-125A救難捜索機の搜索範囲が拡大できるとしている。

芦屋基地には第13飛行教育団(T-4)、芦屋救難隊(U-125A、UH-60J)、第5、第6高射隊(パトリオット部隊)、施設部隊が配備され、第3術科学校がある。

保安林(松林)伐採は農作物に塩害被害が発生！

193m延長のため約10万㎡内の9100本の保安林が伐採される。防衛省側の自主環境アセスメントでは、高さ8m、長さ400mの防潮柵を設置することで、飛散を松林伐採前と同程度に軽減できるとしているが、年間の平均風速のみでの比較であり、冬場の10m/sを超える風速影響の比較がなく、農作物への塩害被害を過小評価している。江戸時代から松の枝1本、腕1本と塩害対策で大事に松を育てた先人はこの計画に怒っているのではないのでしょうか？

滑走路延長の真のネライは？

防衛省の平成24年度概算要求の概要で、航空救難団を航空支援集団から航空総隊へ隷属替えを計画。戦闘部隊と救難部隊の一体化である。

芦屋基地にU-125Aを配備する時も滑走路延長計画案があり、その時も自治体への協力要請があっている(平成13年)。

いろんな口実を設け、各種戦闘機や輸送機が自由に利用できる滑走路をめざしている。

今回の延長計画のネライは、昨年12月に閣議決定された「新防衛計画の大綱」に基づき、中国脅威論を流布した南西諸島防衛を口実にして、米軍とともに海外派兵する自衛隊をめざす基地機能の強化計画です。



川上芦屋町議の説明を聞く参加者 11/10